

持続社会を支える人々の繋がりを整える

40 地域の繋がりを創出する

例えば、栃木市嘉右衛門町地区の様々な境界関係を概観すると図1のようになっている。嘉右衛門町地区では、町丁境界と自治会境界が一致していないエリアがあるのに加えて、伝建地区の境界もそれらの境界とは異なっており、非常に複雑な関係になっている。このような場合、伝建地区は伝統的な建造物が群として残っている地域であっても、もともとの地域コミュニティにとっては新しく定義された境界で区分された地域として認識され、伝建地区だけで防災対策を含めた地域づくりを完結させるのは現実的に不可能である。したがって、地域づくりを進めるためには、既存の町割やコミュニティを含めて考えていく必要がある。しかし、現状では伝建地区制度における保存活用や地域防災について、地区内および周辺の住民の十分な理解や協働体制が整っているとは言い難く、多主体のステークホルダーの連携体制がつかられていない。そのため、嘉右衛門町地区では地域内の人と

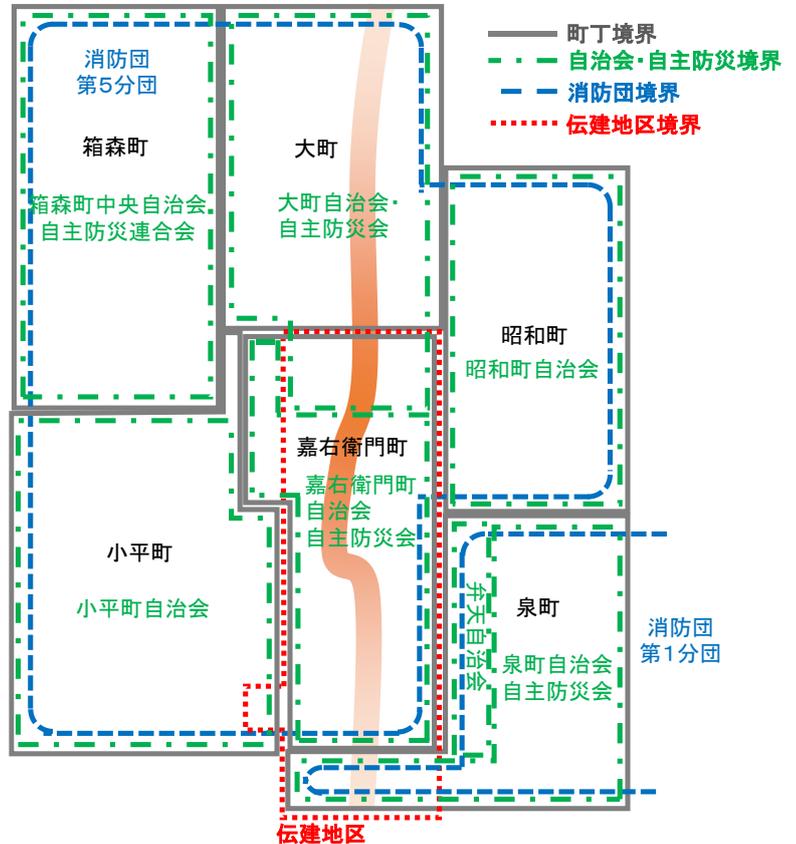


図1 嘉右衛門町伝建地区の境界関係(概観)

人、地域とそこに関係するであろう外部の人をつなぐきっかけづくりとして、人々が顔を合わせる機会をつくることが進められている。それらの取組みの一例を以下で紹介する。これらの取組みは、地域活動に参加するきっかけを求めていた人や、同じ地域で活動しつつもこれまであまり接点の無かった人々が企画への参加を通じて繋がっていき、多重のセーフティネットが形成され実効的な自主防災活動の構築に繋がる効果が期待できる。

■祭りの場を利用する

とちぎ協働まつりは、「あらゆる年齢・性別・職業の市民が集い、企画・運営する市民手作りの市民のためのまつり」として開催されて来た。このイベントには多数の NPO などが参加し、新しいコミュニティ形成の契機となるこ



写真1 とちぎ協働まつりの様子



写真2 とちぎふるさと祭りでの様子

とが期待されている。本研究プロジェクトでは、とちぎ協働まつりに参加し、イベント当日のプロジェクト紹介ブースの設営(写真1)などを通じて、栃木のNPO関係者に伝建地区の現状と防災の重要性を理解していただき、興味関心を持っていただくよう工夫を重ねた。また、とちぎ秋祭りと隔年で開催している、とちぎふるさと祭りでは、子供や生徒など次世代の担い手による活動成果を発表・共有する場(写真2)を設け、地区内外の市民に対するアウトリーチ活動を行った。

■地域で協働活動の機会をつくる

嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会では、来訪者に対するホスピタリティーも意識して環境美化活動を励行し、植栽活動「花いっぱい運動(写真3)」や毎月1度の清掃活動「クリーン作戦(写真4)」などに取組んでいる。マチナカプロジェクトでは、空き家を活用するために必要な掃除・片づけ等(再生活動)を参加型のイベントとして実施し、参加者との交流を図る取組みを進めている(写真5:18項参照)。本研究プロジェクトによる「くらづくり応援隊ワークショップ」(写真6:15項参照)や「防災イベント」(写真7:第Ⅱ編3項参照)も協働活動の場づくりを目的の一つとして実施したものである。



写真3 花いっぱい運動



写真4 クリーン作戦



写真5 空き家清掃活動



写真6 伝統建築の修理



写真7 防災イベント

■地域で学びあう

伝建地区内の住人の中には、伝建地区の制度について理解していない人が多い。そこで、伝建地区制度についての理解を深めてもらうことを目的に、地区内の居住者向けのとちぎ蔵の街職人塾による伝建勉強会(写真8)や、嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会による町並み塾(写真9)などが行われている。



写真8 伝建勉強会



写真9 町並み塾

